



《将来に向けた取組方針》

明治グループの生物多様性保全活動は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、明治サステナビリティ 2026 ビジョンや明治グループ環境方針のもと、持続可能な社会の実現に向け地球環境と事業活動との調和を図り推進して参ります。

具体的には、自社生産拠点およびサプライチェーンにおける事業活動において、グローバルな視野を持ち生物多様性の保全に努めます。

- ・生産拠点における地域社会と連携した従業員参加の生物多様性保全活動の実施
- ・環境教育ならびに生物多様性保全活動を絡めた従業員ボランティア活動の実施
- ・パーム油、紙、カカオなどサステナブル調達の推進によるグローバル視点での生物多様性保全活動の推進

■ 自然環境保全区における生物多様性の保全活動

(株)明治では、旧当社保有地において2007年から公益財団法人日本野鳥の会と連携しながら、野鳥の保護や保全エリアの生物多様性の活動を行っています。この活動により、絶滅危惧種であるタンチョウやオジロワシなどの生存数が保たれていることが確認できています。また、年に2回、従業員ボランティアによる森林保全や野鳥観察を行っており、従業員の環境意識の醸成にもつながっています。



巣箱設置風景

■ 活動実施からの学び

地域社会への協力や従業員体感型の活動を実施することで、生物多様性保全活動をより身近なものに感じ、同活動の持続的実施、つまりは生物多様性保全活動の継続実施につながると考えております。

■ 今後の課題として

自然の恵みの上になりたっている明治グループとして、従業員一人ひとりが生物多様性保全の重要性を認識し、自分ゴト化していくことが重要であると考えています。生態系の維持や地域社会への貢献など従業員が共感できる明治グループらしい生物多様性活動の実施が課題と捉えております。

■ インドネシアにおける植樹活動

Meiji Seika ファルマ(株)のグループ会社であるP.T. メイジ・インドネシアでは、パスルアン地域周辺の山地の傾斜地にある貯水池地域で、毎年3,000本の植樹を行っており、生物多様性保全活動を実施するとともに、従業員への環境教育ならびにコミュニケーションの場としても活用し、従業員の環境意識の自分ゴト化に努めています。



植樹風景

■ 社会に向けたメッセージ

自然の恵みを未来に向けて持続的に享受できるよう地域社会と連携しながら明治グループらしい生物多様性保全活動に取り組んでいきます。